



宇都宮市立錦小学校 学校だより

にしきの子

第8号 令和7年12月 8日 発行者 校長 大森信二

学校教育目標（合言葉）

- 一、しっかり学ぶ 錦の子
- 一、よりよく生かす 錦の子
- 一、なかよく生きる 錦の子
- 一、元気でがんばる 錦の子

運動会スローガン『かけぬけろ 限界突破だ その先へ』

11月21日（金），秋晴れにも恵まれ，運動会を無事に開催することができました。今年は赤組の優勝，白組の準優勝で幕を閉じました。スローガン「かけぬけろ 限界突破だ その先へ」の下，転倒しても失敗しても最後まで諦めず，全力を出し切る児童の姿が随所に見られました。赤組と白組の最終的な得点差は僅かに10点という大接戦でした。どの競技も大変に盛り上がり，まさに限界突破の大活躍でした。皆様，大変お世話になりました。



錦小学校地域協議会

11月12日（水），第2回地域協議会を実施しました。今回は，給食の配膳や昼休みの様子，5校時の授業の様子を参観していただきました。また，当日の給食を皆さんで試食することができました。今回の協議内容は，「あいさつ標語」優秀作品の選出や学校評価アンケートについてです。次回は，2月6日（金）の開催となります。委員の皆様，ご協力ありがとうございました。



お弁当の日



11月19日（水）は，地域学校園の「お弁当の日」です。子供たちの食への関心を高め，感謝の心を育むため，食について親子で考える機会にすることを目的とし，お弁当の日を実施しております。当日は，彩り鮮やかなオリジナルお弁当を美味しそうに頬張る児童の笑顔が，教室中にあふれていました。



宮っ子チャレンジウィーク

11月10日（月）～14日（金），宮っ子チャレンジで，陽北中学校から本校の卒業生が4名来校しました。毎時間違うクラスに行き，授業の観察や児童と触れ合うなど，教師の仕事を間近に体感することができました。また，図書室の整備や事務の手伝い，6年生への中学校紹介など，4名とも，積極的に取り組んでおりました。

教育実習（宇都宮大学）

教育実習生の曾雌 悠斗（そしはると）さんが，11月10日に来校しました。曾雌さんは，宇都宮大学共同教育学部の3年生で，2016年度の本校卒業生です。主に5年1組を担当し，21日までの10日間，実習生として児童指導や学習指導に取り組みました。将来，地域の教育を担う貴重な人材です。今後の活躍に期待しています。

地域清掃 12月5日(金), 1~3年

は校庭, 4年生は中庭・昇降口前, 5年生は錦西公園, 6年生は錦中央公園を担当し, 落ち葉集めやゴミ拾いを行いました。地域協議会・ボランティアの皆様, 大変お世話になりました。



オープンスクール・授業参観

12月5日(土), 2~3校時, オープンスクールでした。たくさんの地域や保護者の方に参観いただきました。ありがとうございました。

教職員の体罰等に係る相談

宇都宮市では、教職員の体罰・不適切指導の根絶や指導力向上を図り、信頼される学校づくりに向け様々な取組を行っております。その一環として、保護者からの体罰等に係る相談の機会を設けております。そこで、相談事案等がございましたら、事前に、校長・副校長までお申し出ください。(☎ 621-0444)

◇相談日：令和8年1月28日(水)・29日(木)

◇時間：13時00分から16時00分

◇場所：錦小学校 校長室



2025年を振り返って

今年の夏は、統計開始以来で最も暑い「記録的猛暑」となり、熱中症対策に頭を悩まされました。外での活動制限や下校時の一時待機と、前例のない決断を強いられました。そのような状況下でも、プールの見守り、かたりいらず、にしき童話館、ガーデニングお助け隊、学校お助け隊、地域清掃、登下校の見守り、夏休み作品整理など、多岐にわたり、地域や保護者の皆様のご支援に助けていただきました。お陰様で、今年も安全・安心な教育活動を展開することができました。改めて感謝申し上げます。令和8年も、ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願ひいたします。

龍安寺つくばい「われただ足るを知る」(吾唯足知)

石庭で有名な京都の龍安寺の庭に、蹲踞(つくばい)があります。つくばいは、茶室に入る前に手や口を清めるための手水鉢(ちょうずばち)のことです。龍安寺のつくばいは、口の字を中心に「吾唯足知」の4文字が時計回りに合成されており、「われただ足るを知る」と読みます。水戸黄門のモデルとして知られる徳川光圀が寄進したと言われています。「足るを知る」という考え方とは、「知足のものは貧しいけど富めり、不知足のものは富めりといえども貧しい」という禅の教えで、もともと老子や仏教思想の中にみられます。今から約2千5百年前、中国の老子は「足るを知れば辱(はず)かしめられず、止まることを知れば殆(あや)うからず」や「足るを知る者は富む」と言っています。また、釈迦は、「足るを知るは最上の財」と説いています。また、仏教には有名な「少欲知足」の思想があります。これらの影響を受け、日本でも江戸時代初期の「浮世物語」には、「人はただ足るをするべし。足るを知る時は楽あり。貪ること多きときは憂いあり」と書かれています。



また、このような思想は古くから西洋にもありました。古代ギリシャ七賢人の一人ソロンの「足るを知る者は眞の富者にして、貪欲なる者は眞の貧者なり」と、また、ソクラテスは「満足は天然の富だ」と言っています。多くの先人たちによる、この「足るを知る」という考え方とは、果てしない欲望の追求を戒めるものと捉えることができます。お金、財産、地位、権力、名誉・・・など、人の欲望にはきりがありませんが、もっと心豊かな生き方にこそ本当の幸せがあると解釈できます。常日頃から謙虚な姿勢を心掛け、何事にも感謝の気持ちを忘れずに、心穏やかに生活することができたら、本当に幸せな人生といえるのではと思います。



本校のHPは日々更新しています。
最新情報はHPでご確認ください。



にっこりえがお
しゃかりまなぶ
ときたえるからだ